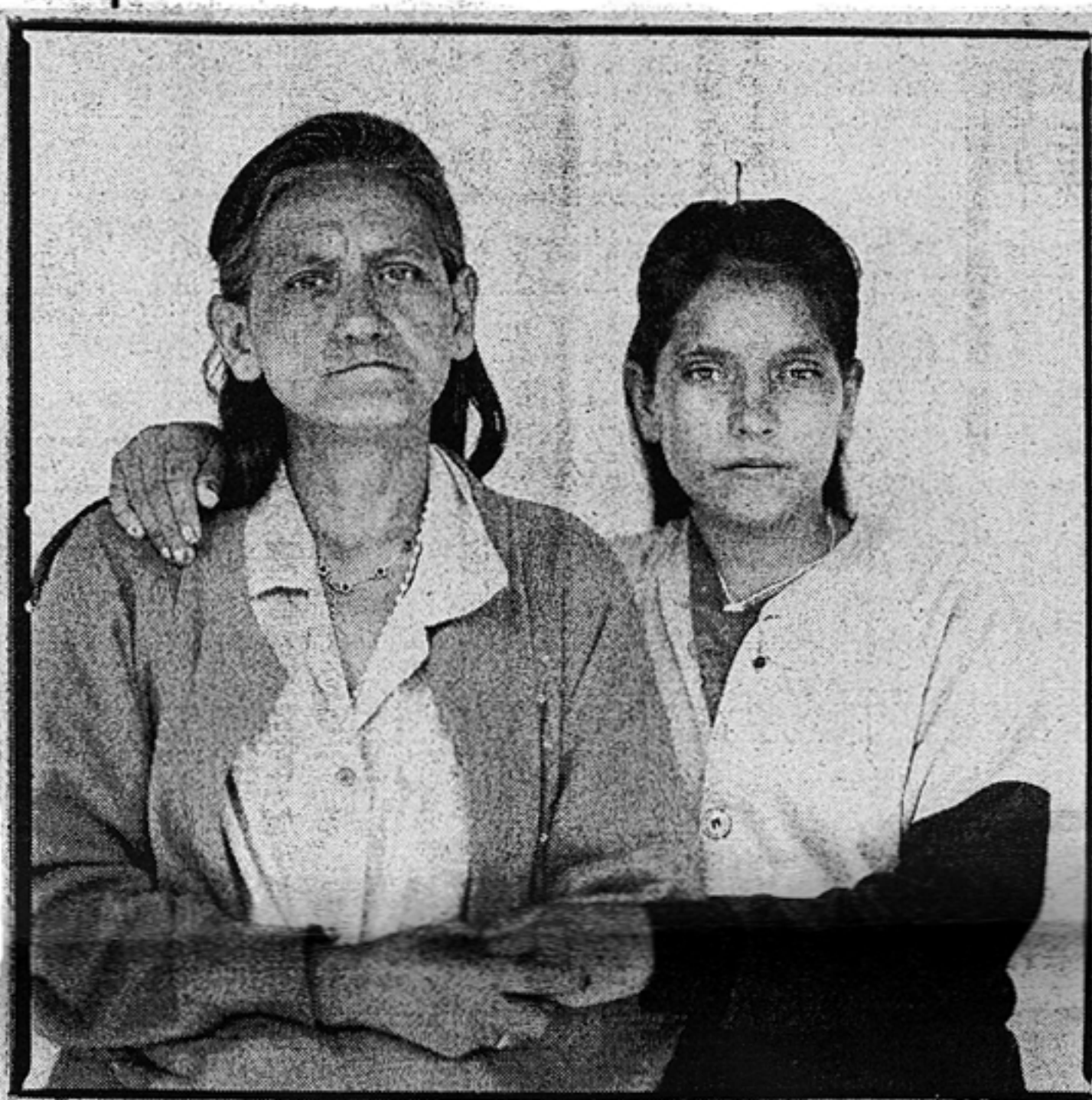


夕張生まれの札幌育ちで、現在アメリカ在住の写真家が、エクアドルの首都キトにある精神病院とその周辺で写した八十枚の作品を一冊にまとめた。

前書きに「(病院内の)静けさに驚いた」とある通り、ページをめくるごとに、静かな空気が立ち上る。掃き清められた石畳の中庭、シートがびっちらりと敷かれたベッド、患者の世話をする教会の修道



私は毎日、天使を見ている。

渡邊 博史

女たち。そして、透明感にあふれた患者のまなざし。写真が、この静寂を二層深めているように感じ

らし、虚空を眺める。彼らは何を見ているのだろうか。一人の女性がこう話しかけたという。

「天使を見ましたか？」

「私は毎日、天使を見ている」

どんな天使なのだろうか…。

(窓社 三九九〇円)